

公 民

1 研究テーマ

(1) 研究テーマ

「指導と評価の一体化」の実現に向けた学習評価の充実

(2) 研究のねらい

単元を通じて、生徒が自らの学習を振り返る機会を設け、自らの意識の変容などを確認させる学習活動を通して、主体的に学習へ取り組めるように働きかけた。また、ワークシート等の成果物以外における「指導に生かす評価」を意識した授業実践を通して、「指導に生かす評価」を効果的に行うための手立てを明確化した。さらに、現代社会における諸課題の考察を通じて、諸課題を「自分事」だけではなく「自分たちの事」として捉え、広い視野を持ち、これからの社会の形成者として求められる公共性を高めるための学習課題の設定を明確にした「公共」のモデル授業をデザインした。

2 実践事例

(1) 単元の指導と評価の計画

ア 科目名：「公共」

イ 単元名：経済社会の形成と市場のしくみ

ウ 単元の目標：

自立した主体としてよりよい社会の形成に参画することに向けて、現代社会の諸課題に関わる具体的な主題を設定し、幸福、正義、公正などに着目して、他者と協働して主題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるようにする。

- ・市場経済の機能と限界、社会の変化と職業選択、雇用と労働問題などに関わる現代社会の事柄や課題を基に、公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること及びより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解する。
- ・現代社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付ける。
- ・法、政治及び経済などの側面を関連させ、自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現する。
- ・よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする。

エ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・市場経済の機能と限界、社会の変化と職業選択、雇用と労働問題などに関わる現代社会の事柄や課題を基に、公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること及びより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解している。</p>	<p>・幸福、正義、公正などに着目して、法、政治及び経済などの側面を関連させ、自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。</p>	<p>・よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。</p>

<p>・現代社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。</p>		
--	--	--

オ 単元の指導と評価の計画 ○「記録に残す評価」 ●「指導に生かす評価」

【単元を貫く問い】 私たち一人ひとりが幸せな暮らしを送るためには、効率と公正をどのように両立させていくべきか。

次	時	学習活動	知	思	態	評価のポイント・指導上のポイント
1	1	<p>問い：私たちはどのように経済と関わりあっているのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元を貫く問いについて現時点での答えを考え、今後の学習についての見通しを持つ。 ・資源の希少性について、自分自身に置き換えて考察する。 			○	<p>● 【態】 経済社会の形成について、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p> <p>【思】 資源の希少性について、自分自身と関連付けて考察できている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の例を示し、トレードオフ・機会費用など経済学的知見は日々の思考にも大きく影響を及ぼしていることに気付かせる。(指導上のポイント)
2	2 本時	<p>問い：市場での活動は、私たちにどのような影響を与えるのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市場における需要と供給の関係について理解し、需給曲線のシフトについて、日常生活に関連させてその特徴を考察する。 ・市場経済における現代社会の諸課題を通じて、自分自身と市場の関わり方について考察する。 	○			<p>● 【態】 現代社会の諸課題を通じて、自分自身と市場の関わり方を主体的に考察しようとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人の利益の追求と社会全体の利益は相反する場合があることについて触れ、広い視野から現代社会の諸課題について考察させる。(指導上のポイント)
3	3	<p>問い：経済発展と環境保護を、私たちはどこで折り合えばいいのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公害を防止し、環境を保全する方策としてどのようなものがあるか考察する。 ・経済発展と環境保全について、私たちが最適だといえるところはどこか、構想し、論拠を持って表現する。 			○	<p>● 【思】 環境保全の方策を考察できている。</p> <p>○ 【態】 経済発展と環境保全のあり方について考えを深め、主体的に表現しようとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公害問題は決して他人事ではなく、自分たちも関係者になり得ることに気付かせる。(指導上のポイント)
4	4	<p>問い：私たちは「豊かさ」をどのような観点で見ているのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済的な豊かさを測る指標にはどのようなものがあるか理解する。 ・物価変動の特徴を理解し、現代の日本の状況がどうであるかを考察する。 	○			<p>● 【知】 経済指標について理解できている。</p> <p>● 【態】 物価変動と、現代の日本の状況を整理、分析、新たな課題を解決しようとしている。</p>

					<ul style="list-style-type: none"> ・あくまでも経済指標は経済規模を図る際の要素の一つにすぎず、豊かさを完全に測れるものではないことを理解させることができるよう留意する。(指導上のポイント) 	
5	5	問い：世の中にはどのような企業があり、どのような役割を求められているのか。			<ul style="list-style-type: none"> ○ ● 	<ul style="list-style-type: none"> 【知】 現代社会における企業の形態とその役割について理解できている。 ● 【態】 企業の社会的責任について、現代社会における諸事項と関連付けて、主体的に考察しようとしている。
		<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会における企業の形態とその役割について理解する。 ・企業の社会的な責任について、現代社会における諸事項と関連させながら考察する。 				
6	6	問い：今と昔で「理想の働きかた」はどのように変化したのか。			<ul style="list-style-type: none"> ○ ● 	<ul style="list-style-type: none"> 【知】 日本の労働環境の変化について理解できている。 【思】 現代の労働問題とその解決方法について考察し、よりよい社会の形成との関連性について表現できている。 ・学校生活と労働問題を連関して思考できるような学習課題を設定するよう留意する。(指導上のポイント)
		<ul style="list-style-type: none"> ・日本の労働環境の変化について理解する。 ・現代の労働問題について理解し、その解決方法を考察する。 				
7	7	問い：これからの働きかたに必要なものは何か。			<ul style="list-style-type: none"> ○ ● 	<ul style="list-style-type: none"> 【思】 技術革新が進む社会を、身近な問題と関連付けて考察できている。 ● 【態】 変化する社会の中で、自らの将来のあり方を主体的に考えようとしている。 ・技術革新が進む社会の中で、どのようなあり方が自らを社会の中に埋没させないか、という点にまで考えが及ぶようにする。(指導上のポイント)
		<ul style="list-style-type: none"> ・技術革新が進む社会を、身近な問題と関連付けながら考察する。 ・変化する社会の中で、自らの将来のあり方を考える。 				
8	8	問い：100年後も農業が受け継がれていくために求められる効率・公正のバランスはどこだろう。			<ul style="list-style-type: none"> ● ○ ○ 	<ul style="list-style-type: none"> 【思】 日本の農林水産業のあり方について、考察できている。 ○ 【思】 単元を貫く問いに対して、合意形成を視野に入れながら、効率と公正の視点を踏まえ、課題の解決に向けて考察することができている。 【態】 単元を貫く問いに対し、学習活動を通じての意識の変容が見られている。また、学習の結果、新たに生まれた問いを確認し、学習することへの意義を見いだしている。 ・社会には多様な人々が存在し、ともに暮らしているという点を踏まえ、その中で効率・公正のバランスをどのように取ればよいか、視野を広げて考えられるようにする。(指導上のポイント)
		<ul style="list-style-type: none"> ・日本の農林水産業をどのように持続・発展させていくために、どのような方策があるかささまざまな視点を踏まえ、考察する。 ・単元を貫く問いに対して、学習活動を通じた答えを考える。 				

力 授業実践例 (2時間目/8時間) ※65分授業で実施

学習活動(指導上の留意点を含む)	評価の観点 (評価方法)
<p>1. 導入(5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習内容を振り返り、板書された問いについてペアで説明・補足を行う。 <p>【発問】 「3つの経済主体の関係性とは何か」「トレードオフ・機会費用とは何か」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習内容、問いを確認する。 <p>【問い】 市場での活動は、私たちにどのような影響を与えるのか。</p>	
<p>2. 展開①(10分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市場における需要と供給の関係について理解する。 〈留〉生徒自身が需要者だけでなく、供給者としての立場も持ち合わせていることに気付かせる。 ・需給曲線のシフトについて、日常生活の様々な場面においてどのように変化しているのかを考える。 <p>【発問】 世の中における価格と生産量はどのようにして変化するのか。</p> <p>〈留〉農作物の価格高騰など、日常生活から例示することで、生徒が発問を捉えやすいようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市場には多数の参加者が存在し、個人の利益追求が社会全体の利益と相反することもあることを理解する。 	<p>○【知】需要と供給の関係について理解できている。(ワークシート)</p>
<p>3. 展開②(10分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市場の失敗とはどのようなものなのかを考える。 <p>【発問】 市場がうまく働かない時とは、どのようなものか。</p> <p>〈留〉市場の失敗を補正するため、社会では様々な取組が行われていることに触れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中に、どのような市場の失敗があるかを考え、市場経済は必ずしも最適な資源配分を達成できるわけではないことを理解する。 	
<p>4. 展開③(35分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会問題となっている「転売」について考えることで、自らの市場経済に対する向き合い方を考察する。 ・転売はそもそも悪いことなのかを考察する。 <p>【発問】 転売による買い占めで企業は利益を得たのでは？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・効率の視点と、公正の視点の二点から転売を考え、世間で転売が非難されている理由を考察する。 <p>【発問】 転売によって得した人、損した人はどんな人？</p> <p>〈留〉現代社会において転売が非難される要因は、公正の視点からであることに気付かせる。</p> <p>【発問】 『良い転売』と『悪い転売』の違いとは？</p> <p>〈留〉効率の視点から考えると転売は必ずしも非難されるものではないと捉え</p>	

<p>られるが、転売によって企業は短期的には利益を上げたが、長期的には企業イメージの低下などの悪影響を受けていることにも触れる。</p> <p>・思考実験「共有地(コモンズ)の悲劇」に取り組み、結果をペア・グループで共有する。</p> <p>【発問】共有地(コモンズ)の悲劇はなぜ起こり、どうすれば防げたのか？</p> <p>〈留〉個人の利益追求と社会全体の利益は相反することがあるため、長期的に見た場合効率の視点においてもよりよい公共的空間の形成には転売はそぐわないという点に触れる。</p> <p>・どのような販売方法が効率・公正のバランスの取れた「転売ヤー」対策になるのかについて考察し、グループで共有する。</p> <p>【発問】世の中にはどのような販売方法があるのか？</p> <p>【発問】どのような販売方法が効率・公正のバランスの取れた転売対策となるのか？</p> <p>〈留〉机間指導等を行い、適切な意見交換ができるように支援する。</p> <p>〈留〉適宜、現代社会で行われている販売方法の具体例を紹介し、生徒の考察を促すように働きかける。</p> <p>〈留〉ICT機器などを活用して、グループでの共有結果をクラス全体に共有することで、多くの他者意見を参照できるようにする。</p>	<p>●【態】思考実験への取組状況から、個人の利益と社会全体の利益の関係性について主体的に考察しようとしている。(活動観察)</p> <p>●【態】現代社会の諸課題を通じて、私たちと市場との関わりかたを主体的に考察しようとしている。(活動観察)</p>
<p>5. まとめ(5分)</p> <p>・リフレクション(ふりかえり)コーナーへの記入を行う。</p> <p>〈留〉自己を埋没させずに、社会全体の利益を考えるにはどのようにするべきかという視点を持ち、学習を進めていくよう指導・支援する。</p>	<p>●【態】現代社会に対する視点を「自分」から「自分たち」へと広げることができている。(ワークシート)</p>

研究実施校：神奈川県立厚木高等学校(全日制)
 実施日：令和7年11月6日(木)
 授業担当者：小野 要 教諭

(2) 「指導と評価の一体化」の実現に向けたポイント

ア 単元指導計画について

本単元指導計画の作成に当たり、社会のありようを生徒自身が主体的に学習・探究できるよう、一貫した問いを設定するように留意した。「高等学校学習指導要領(平成30年告示)」において、公民科の目標は「社会的な見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す」とある。グローバル化が進んでいくことが予想されるこれからの国際社会において、その形成者となっていくためには個人としての幸福追求と社会全体の利益という複線的な視点が求められる。そのため、単元を貫く問いについては「私たち一人ひとりが幸せな暮らしを送るためには、効率と公正をどのように両立させていくべきか。」と設定し、様々な社会的課題に対して「自分事」という一面的な見方で判断を下すのではなく、「自分たちの事」と多面的に捉える経験を重ねることで、今後、他者との協働を行う際の思考の軸を形成する一助となるように工夫した。また、単元を貫く問いに対して、各授業の問いが連動し、学習がより効果的なものになるよう工夫を図った。その際、単元を貫く問いを基軸に据え、各授業における問いが構成されるように意図した。さらに、単元の始まりと終わりで単元を貫く問いについて考察させ、思考がどのように変容していったのかを生徒自身が捉えられるように学習活動の機会を確保した。

また、座席表に見立てた枠へ生徒それぞれが自身の考えを入力し、意見を共有していくことができ

るGoogle スプレッドシート(図1)などのICTツールを活用することで、生徒一人ひとりがより手軽に様々な意見にアクセスできるような機会を提供した。また、生徒が自らの「思考・判断・表現」の基準を見つめ直し、広い視野を持つことで、公共性を高められるような授業構成とした。

どのような販売方法が、効率・公正のバランスが取れた「転売ヤー」対策になるのか？							
まど	自社の商品の購入履歴を隠す。	・使用する、している履歴を 購入者に知らせず ・インターネットで履歴などを 出して事前に警告書というものを 配布する。	マイナンバーカードと紐の一斉で、購入できるようにする。	買える数量を制限する。制限	・数量制限を設ける	・数量制限を設ける 購入者に警告を設ける	ろうか
	・みんな使っているかを 写真撮って送る。 ・友一を定める	・絶対興味ある人は 知ってることを言葉にする ・友達と違って買っている ・何を買えるか決める	・購入時に個人情報を入力させる		・数量制限を設ける	・「私は転売をしない」と宣言する。	
	一冊ずつ同じと思うか説明させるなどなんふうに選んで いるか記録簿	どう思うか書きさせたものをなんからしらの形でネット に上げる	・その会社に向けたお金の裏でできるいいをかける ・同社の会員でない人買えないようにする ・抽選券を他の商品に貼らせる。	・数量制限(数量制限)	・商品についてのテストをする ・転売を禁止で強制する	・会員登録を作って数量制限 ・転売した人がある人を購入禁止にする。	
数量制限	それを覚えている人にかかわらないで隠す	商品の数量を記録して転売された商品があったら 買った人はその会社の商品が買えなくなる(抽選券 で買わず)		・抽選券にマイナンバーを貼る(転売から転売禁止 システム)に転売を強制する(買えないを押し返す)転 売するものは買えないものを買っていいように とまで持っていた人に不安がふりかかる	・信用履歴を定める ・信用履歴を強制する	・数量制限 ・本人のみしか使えなくなる	
「アカウントができて何年以上」とあるなら制限	警告を貼る	ゲームアドレスを個人別に記録し(転売を禁止)したら そのアカウントを買わせる		・購入可能な条件の厳格化を定める。…今まで買った ゲームの購入履歴の共有からアカウントを買って 転売する人が買えない人を買わせる。転 売禁止にする。転売禁止の条件を厳格化する ・転売禁止の条件を厳格化する。…転売禁止の条件を 厳格化する。転売禁止の条件を厳格化する。…転 売禁止の条件を厳格化する。…転売禁止の条件を 厳格化する。…転売禁止の条件を厳格化する。… 転売禁止の条件を厳格化する。…転売禁止の条件を 厳格化する。…転売禁止の条件を厳格化する。…	ゲーム機でつづつ記録しか使えないようにする		
数量制限	商品に貼る警告をする そのシリーズの過去の 商品を買って確か	・転売した商品がいたら逮捕・購入時の情報 を記録する		・購入可能な条件の厳格化を定める。…今まで買った ゲームの購入履歴の共有からアカウントを買って 転売する人が買えない人を買わせる。転 売禁止にする。転売禁止の条件を厳格化する ・転売禁止の条件を厳格化する。…転売禁止の条件を 厳格化する。…転売禁止の条件を厳格化する。… 転売禁止の条件を厳格化する。…転売禁止の条件を 厳格化する。…転売禁止の条件を厳格化する。…	・数量制限を定める ・信用履歴を強制する	・数量制限 ・本人のみしか使えなくなる	
商品の購入履歴を個人情報を書く	過去に転売したかどうか確かめる	・どのように買うか記録する。…数量制		・購入可能な条件の厳格化を定める。…今まで買った ゲームの購入履歴の共有からアカウントを買って 転売する人が買えない人を買わせる。転 売禁止にする。転売禁止の条件を厳格化する ・転売禁止の条件を厳格化する。…転売禁止の条件を 厳格化する。…転売禁止の条件を厳格化する。… 転売禁止の条件を厳格化する。…転売禁止の条件を 厳格化する。…転売禁止の条件を厳格化する。…	・数量制限を定める ・信用履歴を強制する	・数量制限 ・本人のみしか使えなくなる	

図1 Google スプレッドシートによるクラス内の意見共有

イ 本時の授業展開について

本時の授業においては、目標を「価格の変化が、消費者と企業の行動にどのように影響を及ぼしているか、理解する」(知識及び技能)、「市場経済の機能と限界に関わる現代社会の事柄や課題を理解し、広い視野を持って社会をとらえ、課題を解決しようとする態度を養う」(学びに向かう力、人間性等)と設定し、この目標を達成するため、本時の問いは「市場での活動は、私たちにどのような影響を与えるのか」とした。本時の問いに生徒が向かい、段階的に考察していくことができるように、まず導入部分では、前時の学習内容についてペアで説明・補足を行い、現代の経済社会のあり方を理解するために必要な基礎知識を確認した。その上で展開として市場経済の特徴を理解し、市場経済に起因する現代社会の諸課題について考察した。

展開部分については、内容を大きく三つに分けた。展開①として、市場における需要と供給の関係について確認し、価格というシグナルに対して、需給はどのように行動し、結果としてどのように価格・生産量は決定していくのかについて考察させ、需給の関係についての基礎的な知識を身に付けさせることを目指した。また、需給曲線のシフトについて、日々の事象から思考させることにより、学習した内容と日々の生活が結びつくことで、生徒が発問を自分事として捉え、思考していくことができるようになることを目指した。

展開②では、市場の失敗について、日々の事象を交えながら考察させ、市場経済が必ずしも最適な資源配分を達成できるわけではないことを理解させることを目指した。

展開③では、近年の社会問題の一つとして取り沙汰されている転売について、生徒は多面的な視点からの考察を行った。まず、転売とはどのようなものがあるのかという具体例をペアワークで話し合い、転売についてどのように思うのかを確認した。結果として、大半の生徒が転売に対して否定的であったが、続けて「転売による買い占めで企業は利益を得たのでは？」と発問すると、一定数の生徒が解答に窮する場面が見受けられるなど、自らの考えを見つめ直す姿が散見された。その後、効率の視点と、公正の視点の二点から転売を考察させ、世間で転売が非難されている理由が公正の視点によるものであることを確認し、効率の視点から考えると転売は必ずしも非難されるものではないことに触れた。その上で、思考実験の一つである「共有地(コモンズ)の悲劇」に取り組み、長期的な視点で見ると効率の視点からも転売は容認されるものではないことを確認した。また、この思考実験への取組から、個人の利益追求と社会全体の利益との相反関係を主体的に考察することができているかどうか

か、「主体的に学習に取り組む態度」の観点を「指導に生かす評価」として見取ることとした。

最後に、効率の視点、公正の視点の両者を兼ねた販売方法とはどのようなものがあるのかを考察させ、グループでGoogle スプレッドシート(図1)を用いて共有した。販売方法という供給側の視点から転売対策を思考することで、経済社会には多様な主体が参画していることを意識させ、主に需要者の視点から経済社会について捉えることが多い生徒たちが多面的に市場を捉えることの重要性に気付くことを目指した。この活動を通して、経済社会に対する関わり方を多面的に捉え、視野をより広く持つことができているかどうかを、「指導に生かす評価」として見取ることとした。

振り返りでは、現代社会における諸課題への自らの関わり方について、主語を「自分」から「自分たち」へと広げて考えることができているかどうか、リフレクション(ふりかえり)コーナー(図2)への記述を基に「主体的に学習に取り組む態度」の観点を「指導に生かす評価」として見取ることとした。なお、リフレクション(ふりかえり)コーナー(図2)とは、本時の授業内容が終了した際に、その授業で学習した内容の振り返りとして生徒それぞれに記入させるものである。具体的には、以下の三点を振り返る内容としている。一点目は本時の学習の内容を振り返り、あらかじめ教師から示された枠組みの中で学習内容を確認することにより、まずは視覚的・直感的にどのような力を高めることができたのかを振り返るものである。二点目は、その視覚的・直感的に高まったと考える力を意識しながら、学習内容について分かったこと、分からなかったことを記述する活動である。これは、感覚的ではない詳細な部分を言語化するためのものである。三点目は、学習のはじめに考えた問いに対して、学習後どのような考えを持つことになったのか、今後の学習・生活に活かしたいこと、今後の学習を通じて考えていきたいことや学びを深めたいことは何かをそれぞれ記述する活動である。これは、「学習を通じて自らの考えはどのように深化したのか」、「得た学びを今後どのような場面で活用していくのか」、「学習を通じて発見した課題を今後どのように追究していくか」といった観点から自身の考えを言語化するものである。以上の三点を考えることで、生徒は今回の学習で得たものを体系的・段階的に確認することができる。また、教師は記述内容を確認し、ワークシートに適宜補足などを追加していくことで、授業中の関わりでは十分に支援しきれなかった生徒に対してのフォローを行うなど、学習内容の個別最適化を図ることを目指している。

リフレクション (ふりかえり) コーナー

(1) このプリントでの学習を自分でふりかえってみよう。
(このプリントの学習の中で、自分ができたものに○をつけよう。)

聞く力 (相手の話を落ち着いて聞くことができたか)	
書く力 (自分の伝えたいことを、言葉にできたか)	
話す力 (伝えたいことを、相手に伝えられたか)	
読み取る力 (目の前の状況を、正しく理解できたか)	
考える力 (課題について、自分なりに考えることができたか)	
立ち向かう力 (難しい課題について、あきらめず取り組めたか)	
自分と向き合う力 (自分で努力・進歩したことをつかめているか)	

(2) 今回のわかったところ、わからなかったところ

わかった度	1 · 2 · 3 · 4 · 5
わかったところ	
わからなかったところ	

(3) 学習全体を振り返って

Point への「学習後」の答え	
今後の学習・生活に活かしたいこと	
今後も考えたい深めたいこと	

図2 リフレクション(ふりかえり)コーナー

ウ 授業の振り返りと学習評価について

今回の授業実践における成果としては、生徒の思考の軸の変容、現代社会の諸課題を考察する際の主語の拡大を促すことができたことが大きいと考える。多様な人々が共存する現代社会において自他の関わりのバランスを取ることは重要であると考えられる。今回取り組んだ思考実験「共有地(コモンズ)の悲劇」においても、個人の利益追求が結果として社会全体の利益を抑制してしまうという意味を示しており、この考えを現代社会に置き換えたのが転売問題であるともいえる。今回、この学習内容に取り組んだのは1年生であり、これからの人生においても多くの事象を経験していくことが予想される。ともすれば、軽い気持ちで「自分さえ良ければそれで良い」という発想にたどり着く生徒もいるかもしれない。今回の授業実践において、生徒は段階を踏みながら転売という社会問題を分析したことにより、想像力を働かせながらより多くの視点を内包し、思考することができたと考えている。

リフレクション(ふりかえり)コーナーにも以下の記述があり、課題について思考する際に「自分」から「自分たち」に主語を拡大させることができた生徒が多く見受けられた(表1)。

表1 「自分たち」に主語を拡大させることができた生徒の記述(原文ママ)

<p>【生徒A】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私たちひとりひとりが自分の行動によって起きるデメリットを自覚することが大切であり、転売によって店の利益がうばわれることは回りまわって全体に被害がいく結果になることを、みんなが知っておくべきだと思った。
<p>【生徒B】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・限りある資源を無駄がないように効率的にかつ、誰もが平等に使える公平さを兼ねた考えが私たち一人一人が幸せになる社会をつくるには必要だと思った。また、自分だけの利益を求めめるのではなく、周りの人たちの利益やバランスを考えて行動することも大切だと思った。

一方、以下の記述のように、主語が「自分」から拡大することができていない生徒も一定数いた(表2)。

表2 「自分たち」に主語を拡大させることができていない生徒の記述(原文ママ)

<p>【生徒C】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・需要と供給が一致するところで買い物をして、豊かな生活を送ることが大切だと思った。
--

今回の授業実践は、前述したとおり8時間構成のうち2時間目の内容である。経済社会を概観する本時の内容について、主語を「自分」から「自分たち」に拡大することができた生徒が多くいたことは、単の後半で各論について学習していく際に、同じ視点を持って学習を進めるという指針を示すことにつながったと考える。今後の授業においても、視点を広く持てるような学習課題を設定し、展開していくことで、生徒一人ひとりが単元を貫く問いに対して、自身の答えを深化させ、公民科全体の学習目標に向かっていけるのではないかと考える。一方で、主語を拡大させることができていない生徒に対しては、今後の学習活動における机間指導の際に、関わりをより多く持ち、そして教師側がその生徒の実態をより多面的・多角的に見取っていくことを意識し、生徒の実態に応じて、その生徒なりに主語を拡大させることができるような支援をしていくことが求められると考える。一口に「主語を拡大させることができていない」と言っても、その理由は生徒個々によって異なる。また、視点がずれたまま学習課題に取り組ませたとしても学習効果は薄くなってしまう。教師が、学習の伴走者として生徒の学びを支援・調整していくためには、一方的な知識・思考の伝達ではなく、双方向的に学びに向かっているような教師としてのあり方を持つことが肝要であると思う。

このように、生徒の意識の変容や思考の軸の変化を把握し、目指すべき方向に向かって学習課題の調整や学習活動の調整を行ったり、目標に向かうことができていない生徒に対して支援をしたりするなど、指導や学習の改善を図るための指針として活用するのが「指導に生かす評価」であると考えられる。このことを意識せずに、「記録に残す評価」をどのように見取るのかということに意識が集中してしまうと、学習評価が必ずしも指導の改善につながらない、という状況も考えられる。常に生徒の実態

に心を配り、関わり方を精選しながら、学習状況を適切に把握することの重要性を改めて感じた。

エ 「指導と評価の一体化」の実現に向けた成果と課題

今回の授業実践における成果としては、提示された学習課題について生徒が思考する中で新たな視点を獲得し、思考の軸や判断の基準が変化、洗練されていったことであると考えられる。世の中にある当たり前とされるものに対し、論点を整理して論理的に分析・評価する力(クリティカルシンキング)は公民科に限らず、すべての教科における学習活動を通じて生徒が身に付けて欲しい資質である。また、「指導と評価の一体化」の実現という視点から考えると、単元を貫く問いを示し、各授業における問いを考察しながら、それぞれの段階ごとに学習状況を見取り、指導を改善していくという循環を働かせることができたのも大きいと考える。

今回の授業実践においては、「指導に生かす評価」に関連して授業中にどのように生徒の学習状況へアプローチするのかを意識して授業を展開した。特に机間指導等を行う際に、重点的に見取っていた生徒についても意識の変化がみられた。いずれの生徒についても、単元の学習のはじまりには単元を貫く問いに対して「『自分』はこのように考えるため、このように行動する」というように、主語が自分に終始するような回答であった。また、本時の学習課題への取組においても、最初は転売に対して肯定する発言をしたりするなど、自己の利益の追求が経済社会にとってあるべき姿であるという視点がみられた。そのような生徒に対して、机間指導の際、「自分の行動によって自分以外にはどのような影響が波及するか」という声掛けを行うなどの学習支援を行った。その声掛けに対して生徒らは、共有の際に少しずつではあるが個人の利益追求が社会全体の利益に相反することに触れて発言することができるようになった。最後の振り返りにおいても、「自分だけでなく周囲への配慮も必要だ」という記述がみられ、授業1時間の中において、視野を広げることができていた。

生徒一人ひとりにとって、最も学習効果が高い瞬間は授業中の学習への取組の最中であると考えられる。可視化されている学習評価の材料としてワークシート等があり、授業後にワークシート等の記述内容から生徒の学びを見取る方法も評価方法の一つではある。しかし、生徒が思考し、その内容を表出させている瞬間こそ生徒の学びの本質が現れており、その点に教師はフォーカスする必要がある。そのため、各授業において教師は、生徒たちが何を理解し、考え、感じ取って欲しいのかを授業実践前に明確にする必要がある。その上で、適切に生徒に関わるのが重要となる。学習課題に対する向き合い方は生徒一人ひとり異なる。そして、異なる個人が集まり、クラスという社会が形成されている。その社会に対して授業を実践し、全体を学習目標に向かわせていくためには、画一的な指導では学習効果は薄いものとなる。指導のあり方を目の前の生徒ごとに変化させられる柔軟性、学習評価は教師が一方的に行うものではなく、双方向的に行われるものだと考える。教師は自分自身の指導のあり方を常に見つめ直す必要があるという意識を持つこと、そして何よりクラスという社会の構成要素である個人との関わりを授業中に持つことが指導の改善への第一歩であると授業実践を通じて改めて感じた。

その一方で、課題としては大きく以下の二点が考えられる。一点目は、生徒が思考した内容を共有する時間が不十分であったことである。今回の授業実践においては、学習活動の最後に効率の視点と公正の視点の両方を兼ねた販売方法について思考させ、グループで共有をさせたが、思考に重きを置いた場面が多かったこともあり、なかなか意見共有にまで時間を回せていないグループが散見された。他者の意見と自らの意見を比較し、より多様な意見を自らに内包していくことが思考する際の主語を拡大させていくためには必要であるが、確実にその場面を確保することが重要であると改めて感じた。実際、リフレクション(ふりかえり)コーナー(図2)の(1)についても、今回の授業実践においては「聞く力」「書く力」に該当すると答えた生徒は比較的少なく、「立ち向かう力」「自分と向き合う力」に該当すると答えた生徒が多かった。リフレクション(ふりかえり)コーナー(図2)の(1)については、三つの評価観点において「聞く力」「書く力」が知識・技能、「話す力」「読み取る力」「考える力」が「思考・判断・表現」、「立ち向かう力」「自分と向き合う力」が「主体的に学習に取り組む態度」に対応している。単元の指導と評価の計画にあるように、それぞれの学習内容において評価する観点があるため、教師側が設定した評価の観点と実際に生徒自身が達成できたと感じた項目がどこまで一致しているのかを見取ることで、指導内容と学習評価の整合性を確認することができる。この循環を続けていくことが「指導と評価の一体化」を実現させていくためのヒントになるのではないかと考える。

二点目は、自己に対する評価が低い生徒への対応である。今回の授業実践においては、どのような

ものが効率の視点、公正の視点を兼ねた販売方法なのか、という問いに対して生徒それぞれに思考させたが、明確な解答は提示しなかった。結果として、自らが示した販売方法は、果たして正しいものなのか不安になり、それを誘因として自己評価が低くなっている生徒が一定数存在した。現代社会においては、絶対的な正解がある問題のほうが少なく、転売問題についても完全な解決方法は未だにないと考えられる。だからこそ、物事を柔軟に多面的に思考することが重要であると考え、間違いや失敗をすることを恐れて一步踏み出せない生徒もいる。この点においても、やはり学習中に机間指導等を通して生徒と関わりを持ち、学習の伴走者として助言等の支援を行うとともに、授業内において指導と評価のサイクルを回しながら、生徒の自己肯定感を高めていく視点を持つことが重要だと感じた。

本研究を通じて、「指導と評価の一体化」を推進していくためには、教師が生徒と関わりを持ち続け、生徒の学習状況を確実に把握していくことが重要であると改めて感じた。教師が学習内容を提示し、一方的に教示するようなものではなく、教師と生徒が互いに学び合うことが大切なのである。そのためにも、教師はICT機器等の導入など、教育環境の変化も活用しながら、過度な負担とならないよう留意し、目の前の生徒と関わりを持ち続けるよう工夫をしていく必要がある。今回の経験を生かし、今後もより社会全体を細部まで俯瞰できるような生徒の資質・能力を育成できるような授業実践を続けていきたい。